くみあいNEWS

第１５２１４号
2020年3月16日(月)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ：http://nssmwu.jp/　　代表内線番号　和歌山地区(本部)(54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

2020年度第8回中央委員会報告

【日時】3月13日（金）8時30分～9時20分
【出欠】出席48人　委51任人　欠席0人
【議長】清水氏

Ⅰ　報告事項

1. 上部団体会議報告
   ・第11回中央執行委員会
   ・第12回中央執行委員会
   ・中央労使協議報告
2. 新型コロナウイルス感染症への和歌山労組の対応について

Ⅱ. 協議事項

Ⅲ. 審議事項

1. 「生産設備構造対策と経営ソフト刷新施策の実施について」に対する和歌山労組としての当面の進め方（その2）に関する件
2. 「ＡＰ20春季取組み」に対する和歌山労組としての当面の進め方に関する件
3. 「定年年齢の65才への引き上げ及び関連する人事処遇制度の改訂について」に対する和歌山労組としての当面の進め方に関する件
4. 「一般者における新たな社員区分の設定について」に対する和歌山労組としての当面の進め方に関する件
5. 「一時的に転勤を免除する制度の新設について」に対する和歌山労組としての当面の進め方に関する件

Ⅳ. その他

中央委員会の議事内容（抜粋）を紹介します

新型コロナウイルス感染症への和歌山労組の対応について

新型コロナウイルス感染症については、依然として国内においても感染ルートが不明確な罹患者が発生・拡大していることから、今後も引き続き警戒が必要である。

したがって、組合としては感染拡大防止の観点から、政府方針等を踏まえるとともに、会社からも「会合等は、不要不急の案件以外は極力実施を回避する」との指針が出されていることから、執行委員会・支部長会議で協議した結果、当面の間、組合の機関会議ならびに職場討議については、下記の通り対応していくこととした。

各支部、機関役員の皆様のご理解とご協力をお願いする。

1. 中央委員会の対応について

所の基本方針「運営上必要な打合せ・会議は実施する」に沿って開催するが、「参加者厳選、ＴＶ・ＷＥＢ会議活用、消毒等の予防措置の徹底」を遵守すべく、出席者は中央委員2名（原則、支部長・副支部長）のみとし、出席できない中央委員については、委任による出席とする。（委任状の提出をお願いする）

2. 職場討議・ふれあい対話の対応について

多くの組合員が参加する行事は、所の基本方針に則り中止とするが、職場討議などの内容説明が必要な場合は、執行部から支部長・支部機

関役員へ直接説明し資料を配布するので、支部内での展開と意見集約をお願いする。

3. 青女委員会の対応について

中央委員会同様、所の基本方針に沿って開催すべきところであるが、本委員会には委任制度を導入していないため、議事を審議し決議することができないことから当面の間、委員会の開催を見合わすこととする。

4. 当面の日程について

3 月 30 日（月）に開催を予定している、第 9 回中央委員会ならびに組合の諸会議については、今後の動向を見極めたうえで開催の可否を検討し、決定次第連絡することとする。

中央労使協議会

・ＡＰ20 春季取組み 第 4 回団体交渉（要旨）

3 月 11 日に開催した第 4 回団体交渉において、会社より今次組合要求に対する回答が示されました。

その内容は、当社を取り巻く状況が日々悪化の一途を辿っている中、まずは当社収益基盤の再構築を果たし、労使の至上命題である雇用の場を確保していくことが経営としての最優先の責務であるとし、連合会からの賃金改善要求に対する回答は見送らざるを得ないと判断した上で、定期昇給の実施を決断したというものでした。

これに対し連合会は、これまでの組合の主張が反映されておらず、極めて遺憾と言わざるを得ず到底理解できるものではないとの直後の見解を述べた上で、会社の今次回答に至った検討経緯を質しました。

会社は、かつて例を見ないほどの大きな危機に直面し、過去最大の赤字を計上する見通しにある中、先般提案した「代休付与要件の特別取り扱い」等に加え、更なる施策の検討含め取組まなければならない状況にあり、将来に繋がる収益基盤の確立を第一に思えば、今次賃金改善要求に応えることはどうしてもできないとの判断に至った旨の見解を示しました。

連合会としては、会社の誠意が形ある回答として見えてこそである旨を再三にわたり主張してきたことを踏まえれば、こうした会社見解を聞いてもなお、納得できるものではなく、基本賃金への「人の投資」について再度検討するよう求め、3 月 25 日の団体交渉にてその結果を聞くこととしました。

和歌山労組からのお知らせ

ろうきんＡＴＭお取扱い終了の再通知

日本製鉄和歌山製鉄所構内（和歌山地区・海南地区）ATM は、下記の日時をもちましてお取扱いを終了させていただくこととなりました。

ご利用のお客さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

今後は和歌山支店 ATM 等、お近くの ATM をご利用いただきますようお願いいたします。

※通帳記帳はろうきん ATM のみでのお取扱いとなります。

尚、ろうきんのキャッシュカードやローンカードは、セブン銀行・ローソン銀行等のコンビニ ATM、MI CS 加盟の金融機関、ゆうちょ銀行等でもご利用いただけます。

ご出金・ご入金の際は、他金融機関 ATM での入出金手数料を実質無料（即時全額キャッシュバック）でご利用いただけるサービスを実施しておりますので、どうぞご活用ください。

お取扱い終了日時

2020年3月31日(火)18:00

ご不明な点につきましては、下記までお問合せをお願いいたします

近畿労働金庫和歌山支店　☎ 073―473－5350
（受付時間：平日 9:00 ～ 17 :00 ）
フリーダイヤル　☎ 0120-191－968
（受付時間：平日 9:00 ～ 18 :00 ）

中央委員会組合長挨拶（要旨）

ご安全に。

本日の委員会、お疲れ様でした。



まずは、足もと会社の新型コロナウィルス対策に対する様々なご対応や業務への影響など、大変な毎日を余儀なくされている点に加え、組合活動も一定の制限をせざるを得ず、本日も出席人数の制限をさせて頂きました。こうした中でも出来る限りのご協力を頂いており感謝申し上げます。ただし、当面はどうなるか分からないのが実情でありますので、毎日情報を入手しながら適宜判断していくことへのご理解をお願い致します。議長からお時間を頂きましたので２点申し上げたいと思います。

１点目はＡＰ２０春季取組みについてであります。

先ほどご報告させて頂きましたが、今次取組みでは２０２０年度３，０００円、２０２１年度３，０００円の財源投入という賃金改善への組合要求に対し、会社回答が示されなかったことについて、厳しい経営状況から「要求する・しない」の判断が組合として非常に困難であった中、やはり「人への投資」やグループ・関係・協力会社の各組合への社会的責任を果たす観点からも要求することを決断しました。

要求を掲げた以上、当然ながら会社回答を引き出すべく全力で取組み、先日の第３回団体交渉では、日本製鉄労連加盟単組を代表して和歌山労組から現場の率直な思いを披瀝させて頂き、この度の生産設備構造対策のプレッシャーに負けない「人への投資」が何としても欲しいとの気持ちを持ちながら回答日を迎えた訳です。

しかしながら、我々の認識を超える経営難であり、賃上げは現実的ではないと判断をされた会社の決断を重く受け止めつつ、日本製鉄労連を中心に会社への再考要請という姿勢を示しており、組合としての主張を続けて参ります。

然は然り乍ら（さ　さりながら）、今次取組みを通じて鉄鋼産業の中長期にわたる課題を、改めて労使間にて認識共有する機会となったことも事実であります。今後、支部役員や職場組合員の皆様との対話活動を通じて現実的な方向性を議論させて頂きたいと思います。その中では、今回同時に示された６５歳定年延長および人事処遇制度の改訂を始めとする各種制度改訂についても、可能な限り意見交換をさせて頂きます。

２点目は生産設備構造対策についてであります。

２月７日の会社発表は皆様と同じく青天の霹靂でありましたし、なぜなのかとの正直な気持ちが今も完全に払拭できていないのが本音であります。

しかし改めて考えてみると、鉄鋼産業は随分早くから世界規模で再編が進んでいました。日本も１９７０年（昭和４５年）に八幡製鐵と富士製鐵の統合により新日鐵が誕生し、トヨタ自動車に抜かれる１０年後まで売上高日本一が続きました。２００３年には川崎製鉄と日本鋼管が統合しＪＦＥスチールが誕生しましたし、２００５年の新日鐵・住友金属・神戸製鋼による３社連携が始まって以降、一層の推進が続きました。そして２０１２年に誕生した新日鐵住金が商号変更を経て現在に至る訳です。

そもそも製鉄所の存在は、地域における雇用や経済など影響力が大きいので、北海道から九州まで各地区の製造拠点を温存してきた歴史はご承知の通りですが、日本企業の統合・再編は規模が大きくなるだけではなく、今や必要なスリム化が不可欠であります。

世界規模で見てみると、鉄鋼メーカー粗鋼ランキング１位は、２００６年に別々の国にある製鉄所が統合したアルセロール・ミッタルであり、年間９千万トン超の粗鋼能力を有します。そして、ベスト１０には中国企業が５つもあり統合・再編による国営製鉄所がほとんどです。日本製鉄は３位から４位あたり、ＪＦＥは８位、神鋼は５０位、日新は８３位です。

さらに、中国の勢いは止まることなく、このままでは日本の鉄鋼は埋もれてしまうことは明白です。日本の鉄鋼メーカーは残念ながら世界から遅れをとったと言わざるを得ません。

そこで勝負のカギは、体質をスリム化し、他国に真似されないほどの高品質製品を生み出し続けるしかありません。儲かる仕組みを構築するべくぜい肉をそぎ落とす苦渋の決断が今回発表の施策であると認識しております。

呉製鉄所の閉鎖はもとより、名古屋製鉄所の厚板ライン休止など非常に残念な施策でありますし、和歌山製鉄所の第１高炉、第４・第５コークス炉、第５－１焼結機、第３連続鋳造機の一部休止は、先ほども申し上げましたが青天の霹靂であるものの、４月からの日本製鉄、とりわけ関西製鉄所が儲かるために不可欠であるとして判断されました。

しかし、現時点では生き残るための挑戦前の段階であり、今次施策の答えが出るのは将来です。その答えが正解となるよう、労使・直協の現役の我々が頑張るしかありません。日本製鉄は「総合力世界№１の鉄鋼メーカー」の目標は変えていませんし、その高い目標に向かって、和歌山・堺・海南で頑張っておられるすべての組合員に、今こそ底力を発揮して頂きたいと思っています。

そして今後も与えられたポジションで、あくまでも前向きに業務に邁進されますよう切に願うところです。ご縁があって、ご自身・ご家族のために働いておられる日本最大の鉄鋼メーカー「日本製鉄」の社員であるとの自負や誇りをもって頂きたいし、そのように心底思える会社に我々の頑張りで挑戦するしかありません。

特に若年層の皆様におかれましては、配属された職場で自らの能力を発揮しながら後継者との期待を背負われ日々お仕事をされております。会社にとって貴重な人財である皆様に未来を託す他、選択肢はないのです。労働組合も然り、優秀な組合役員となって頂き、現場の代表である頼もしいリーダーに後進を譲り、歴史と伝統を繋いでいくことが至上命題です。

日本の鉄鋼業はしばらく冬の時代が続くでありましょうが、春は必ず来るとの信念で、我々自身で和歌山製鉄所そして関西製鉄所を魅力ある事業所にして参りたいと決意しているところです。

労使の目標はただひとつ、会社が繁栄し社員である組合員が幸福であることです。労働組合としての存在意義・求心力を示すさらなる機会となりました。どうか支部役員、青年女性部、執行部の絆を一層深めて組合員のために頑張って参りましょう。本日ご出席が叶わなかった中央委員をはじめ、支部委員、青年女性部員、そして職場組合員によろしくお伝え願います。

ご安全に。